

**2006年度 自主行動計画フォローアップ
結果及び今後の課題等（案）**

平成19年2月22日

**産業構造審議会・総合資源エネルギー調査会
自主行動計画フォローアップ合同小委員会**

**中央環境審議会
自主行動計画フォローアップ専門委員会**

【目 次】

はじめに	1
I. 2006 年度フォローアップの体制及び視点等	2
1. 自主行動計画フォローアップについて	
2. 各業種の自主行動計画策定状況及び各省のフォローアップ状況	
3. 各業種の 2005 年度の CO ₂ 排出量	
4. 2006 年度フォローアップの体制及び開催経過	
5. 2006 年度フォローアップの視点	
II. 各WG 座長報告要旨	7
1. 資源エネルギーWG	
2. 製紙・板硝子・セメント等WG	
3. 電子・電機・産業機械等WG	
4. 自動車・自動車部品・自動車車体等WG	
5. 鉄鋼WG	
6. 化学・非鉄金属WG	
7. 流通WG	
III. 2006 年度フォローアップの結果	31
1. 全体評価	
2. 各業種の評価（概要）	
3. 各業種の評価（詳細）	
IV. 今後の課題等	60
1. 自主行動計画の深掘り・対象範囲拡大等	
2. 目標未達成業種の目標達成の蓋然性の向上	
3. CO ₂ 排出量の削減を一層意識した取組の推進	
4. 業務部門、家庭部門及び運輸部門における取組の強化	
5. 国内外への情報発信	

(参考1) 各業種の目標指標・要因分析・・・・・・・・・・ 64

1. 各業種の目標指標の推移
2. 各業種の目標指標の推移（グラフ）
3. 業種別 CO₂ 排出量（2005 年度実績）
4. CO₂ 排出量の要因分析
5. CO₂ 排出原単位の要因分析
6. 各業種の CO₂ 排出量・エネルギー原単位の変化（基準年度比）

(参考2) 2006 年度フォローアップの視点に関する事実整理等…85

1. 各業種の目標の見直し（目標の引き上げ、目標指標の追加等）
2. 京都メカニズムの活用状況
3. 民生部門・運輸部門における取組の強化
4. 業種間の重複の整理（「バウンダリー（境界）」の明確化）
5. 温暖化対策の費用・効果

はじめに

産業界による自主行動計画については、産業構造審議会・総合資源エネルギー調査会の自主行動計画フォローアップ合同小委員会において、1998年度以降、毎年度、その進捗状況のフォローアップを実施してきた。

本年度のフォローアップは、政府として効率的運営を図りつつ、自主行動計画の透明性・信頼性・目標達成の蓋然性をさらに向上させるため、環境省・中央環境審議会 地球環境部会との密接な連携の下で実施した。また、昨年11月より開始された、産業構造審議会 地球環境小委員会と中央環境審議会 地球環境部会の合同会合における京都議定書目標達成計画（2005年4月閣議決定）の評価・見直しの検討とも連携を図った。こうした両省・両審議会による一体的なフォローアップの実施によって、これまで以上に多様な視点を踏まえた多角的な審議を行うことができたものと評価したい。

自主行動計画に基づく各業種の取組については、これまで着実な成果をあげているものと評価される。特に本年度、フォローアップ対象の全33業種（うち目標既達は21業種）のうち、初めて本格的に8業種が目標の引き上げを行ったところであり、これらの産業界による取組を高く評価したい。また、一部の業種から、京都メカニズムによる排出量の取得状況等について積極的な表明がなされたが、目標達成をより確実なものとするため、こうした努力の継続を期待したい。

他方、自主行動計画の実効性をさらに高めるため、自主行動計画の深掘り・対象範囲の拡大等、CO2排出量の削減を一層意識した取組の推進など、今後の課題について提示をした。また、フォローアップの透明性を向上する観点から、各業種及び各企業において、企業秘密との関係も十分留意しつつ、可能な限り積極的な情報公開等を行うことも求められるところである。政府及び産業界においては、これらの課題について、積極的に取り組むべきである。その際、「環境自主行動計画のフォローアップについて」（平成18年5月中央環境審議会地球環境部会長とりまとめ）にある意見も踏まえるべきである。